

子どもたちの「生きる力」を育む 森林環境教育の輪を広げるために

学校の森 子どもサミット



学校の森・子どもサミット

「学校の森・子どもサミット」は、子どもたちの生きる力を育む森林環境教育の輪を全国に広げることがを目的に、本サミットの前身となる「学校林・遊々の森 全国子どもサミット」（平成19年度から平成25年度まで）の後継行事として、平成26年度から開催しており、今年で6回目（前身から含めると通算13回目）となりました。

今年も、豊かな森林を次世代に大切に引き継いでいくことを目指し、森林環境教育にも熱心に取り組んでいる長野県伊那市において11月2日に開催し、会場となった伊那西小学校体育館には、学校林など身近な森林を活用した教育活動や体験活動に取り組む関係者など、全国からおよそ300人が集まり盛大なイベントとなりました。

今回のサミットは3部構成で行われ、第1部は「子どもサミットのこれまで」として、4名の先生による小学校などで取り組んできた総合学習などの事例発表に加え、伊那西小学校においても、隣接する学校林を活用した授業内容の発表がありました。第2部では「森で起きたこと・森と触れる効能」と題して、第1部の発表者と、幼児期に自然保育・野外保育を経験した高校生、その保護者、そして来場者も交え、森が子どもの育ちにどんな意味、効果があったのか等についてトークセッションが行われました。

第3部では「森がぼくらの教室だ」と銘打ち、森に関する伊那市の取り組みや、森と近づくアイデア等を映像で紹介したのち、世界的バリトン歌手とピアニスト、地元の伊那中学校生徒徒によるミニコンサートが行われ、会場は感動と柔らかい雰囲気にも包まれ



ました。
人それぞれに森との接点があり、発想の転換や少し視点を变えるだけで森と近づくことができることを実感したサミットとなりました。

森JOY

「学校の森・子どもサミット」の連携イベントとして、翌日11月3日に伊那市「市民の森」において、実際に森と近づく体験、森への入口を体感するイベント「森JOY」が開催されました。

森の気持ちよさや楽しさを体験しながら、森の恵みを味わったり、学びを共有したり、森と人との関係をもう一度見つめ直す良いきっかけとなるイベントとなっております。多くの家族連れで賑わっていました。

<http://midorina.jp/>



サミットのこれから

「学校の森・子どもサミット」は、全国の小学生による事例発表のほか、小学校の教員を対象とした分科会等、小学校の活動を対象にこれまで開催してきました。

今後は、小学校就学前の幼児期の活動も対象に含め、教育関係者、森林関係者、NPO団体等を対象に、地域と行政が連携して森林環境教育、自然保育・野外保育をどのように促進していくか等を共有・発信するイベントに衣替えして開催します。

